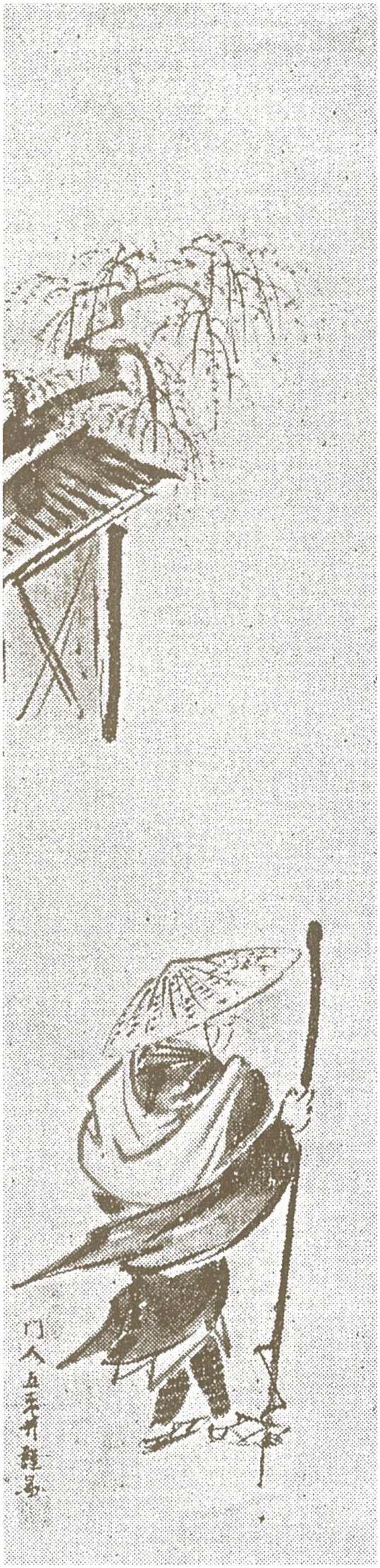

俳聖芭蕉の昭和二十年代・三十年代に刊行された研究書・注釈書を復刻集成。

芭蕉研究資料集成

昭和中期篇
全8巻

佐藤　勝明　編・解説

クレス出版

刊行のことば

和洋女子大学教授
佐藤勝明

松尾芭蕉に関する研究は、層の厚さといい広がりといい、日本文学の中でもとりわけ充実したものであるといってよいだろう。それは、芭蕉の人と作品に、多くの人を引きつける魅力があるということであり、また、さまざまなアプローチを許容する懐の深さがあるということである。実際、没後の比較的早い段階から始まった芭蕉研究は、営々とした積み重ねを続けて今日に至っており、それらは、芭蕉学の変遷や各時点での成果を示すばかりでなく、文学研究の目的・方法・姿勢などについても、多くのことを私たちに教えてくれる。過去を乗り越えたところに現在があるのだから、かつての研究成果など単なる遺物に過ぎない、などといった割り切り方が、少なくとも文学の研究を豊かにすることはありえず、研究を志す者は、対象とする人や作品とともに、研究史に対してもつねに真摯に向き合うことが求められている。もちろん、芭蕉の場合も例外ではなく、先行する『芭蕉研究資料集成』昭和前期篇に続き、『芭蕉研究資料集成』昭和中期篇を編む理由もまたここにある。

本集成で扱うのは、主として昭和二十年代・三十年代に刊行された芭蕉関連の研究書・注釈書であり、それは、昭和前期篇が基本的には戦前の文献を収めるのを承けた措置にほかならない。一体、大戦をはさみ、戦前と戦後ではすべてが大きく変わったとされ、それは文学研究にも無縁でなかったといわれる。しかしながら、「不易流行」は研究にも当てはまることであり、戦前までの蓄積があって、はじめて戦後の開花も可能になったという事実を無視することもできない。大正期にはじまった露伴による芭蕉七部集評釈が、戦時下にあってもやむことなく、戦後に至って完成したという一事が象徴するように、芭蕉を求め、芭蕉の先に真実を求める精神は、戦禍にも滅ぼされることはなかったのだといえる。本集成に集めた書目からもそうした息吹を感じとることはできようし、その中には、戦前からの研究をまとめ、それを戦後の新しい機運の中で公にするといった意味合いのものも少なくない。そして、これらを架橋とすることにより、昭和後期から平成にかけて、芭蕉研究が新たな段階に入ることも可能になったわけである。

このように、戦後の昭和二十年代・三十年代は、芭蕉研究にとって大きな意味をもつ重要な時期であった。ここから学ぶべきことは、決して少なくないはずである。

芭蕉研究資料集成　昭和中期篇　全8巻

〈総記・伝記1〉
芭蕉の風土　岡田利兵衛　白川書院／昭和41年
俳句批判（抄）　栗山　理一　至文堂／昭和30年

〈総記・伝記2〉
芭蕉と初心　山崎　喜好　靖文社／昭和22年
芭蕉論考　荻野　清　養徳社／昭和24年

〈総記・伝記3〉
芭蕉雑纂　菊山当年男　甲文社／昭和21年
芭蕉研究（抄）　菊山当年男　角川書店／昭和37年

〈総記・伝記4〉
芭蕉と寿貞尼　岡村　健三　芭蕉俳句会／昭和31年
芭蕉伝記考　岡村　健三　私家版／昭和38年

〈総記・伝記5〉
註解　芭蕉書簡集　阿部喜三男　新地社／昭和27年

〈作品研究1〉
芭蕉俳文集　阿部喜三男　河出書房／昭和30年
芭蕉翁紀行　奥の細道創見　勝峯　晋風　十字屋書店／昭和25年

〈作品研究2〉
全釈奥の細道　山崎　喜好　塙書房／昭和34年
「おくのほそ道」とその周辺　金沢　規雄　法政大学出版局／昭和39年

〈作品研究3〉
芭蕉俳句の解釈と鑑賞　志田　義秀　至文堂／昭和31年
芭蕉七部集連句評釈　冬の日　志田義秀・天野雨山　三省堂／昭和24年
芭蕉七部集連句評釈　春の日　志田義秀・天野雨山　三省堂／昭和24年

■荻野　清『芭蕉論考』

近江蕉門の分裂と芭蕉

一

芭蕉は伊賀上野の產である。併し彼がこころのふるさととして求めたのは、むしろ大津・膳所をこめた湖南の土地であつたらしい。

芭蕉が足掛三年滯在した湖南を去つて江戸に歸り着いたのは、元祿四年の十月末であつた。その旅疲れも癒えぬ翌月十三日に、芭蕉は膳所の曲水へ宛てて、

誠三とせ心をとゞめ候はこれたれが情ぞや。何とぞ、今來年江戸にあそび候はゞ又〳〵貴境と心轉候間、偏ニ膳所之舊里（ママ）のごとくに存申候。

と誌して居る。江戸には、芭蕉のためまめやかに心を碎く杉風や曾良が居たし、子飼ひの門人である其角や嵐雪が居た。また、人間的な哀歡のくまぐまを芭蕉に味ははせた壽貞尼とその子供たちも、私の推定に從ふならば、此の頃既に江戸に住んで居た筈である。彼等が絶えて久しい芭蕉の溫容にふれ

■岡村健三『芭蕉伝記考』

五十年來の論爭

芭蕉傳記考

廣島の俳人多賀庵風律は、鹽屋町で塗物商を營み、木地屋保兵衛と稱した。俳諧を野坡に學び、その四俳人の一人とされてゐる。かつて師野坡から聞いて書留めて置いた『小ばなし』と題する稿本があり、三登松呂子が發見して沼波瓊音氏に報ぜられた。明治四十四年九月のことである。その中に

一、壽貞は翁の若き時の妾にて、とく尼になりしなり。其子次郎兵衛もつかい被申し由。淺談。

との一項があつた。そこは感激家の瓊音氏のことである。早速これを取上げ、翌四十五年一月號の俳誌『俳味』誌上に「芭蕉に妾ありき」と題して發表された。當時のくわしい事情は知らないが、それは人人にとつて大きな衝撃であつたに相違ない。そして瓊音氏が「芭蕉さま、ようこそ妾を持つて下すつた」とまで喜ばれたことは、今に名高いかたり草とさへなつてゐる。

ついて、翌大正元年七月、安藤和風氏は「芭蕉翁と壽貞尼」と題する一文を草された。『小ばなし』の説を支持し、瓊音氏の説に讃意を表されたものである。そして翌二年刊の

■岡田利兵衛『芭蕉の風土』

三　重（伊賀地区）

芭蕉は仕えた若殿藤堂良忠の死（寛文六年四月一六六六。墓所山溪寺）に会ってから、それを動機に致仕した。その後京に上って各方面の学芸に励んだといわれるが、明確な資料はない。それから江戸へ下ったのであるが、その事情・時点については諸説あって、いずれも伝説の域を越えない。一度東下してまた帰郷したものか、ともかく寛文十二年（一六七二）正月には上野の菅原天満宮奉納の『貝おほひ』を催し、その判詞を行った時は明らかに在郷である。その稿を早速江戸で上梓しているから、すぐ江戸に在ったこともまた確実である。

さて離郷後の延宝・天和の十一年間には帰郷したこともあったであろうが明らかでなく、ただ一回だけが実証される。すなわち延宝四年（一六七六）六月二十日頃に上野へ帰り、まもなく桃印を伴って東行すべく七月二日に出発したのである。しかしこの旅の目標は判然しない。

次は貞享元年（一六八四）八月に、門人千里を同伴、江戸を立つ「野ざらし」の旅で、九月初めに上野に着いたが、四、五日の滞在であった。一応離郷して吉野・山城・尾張をへて再び十二月二十五日帰郷し越年した。この度はややながく、貞享二年二月中旬奈良のお水取りを見に行くまで在郷している。

第三回は「笈の小文」の旅である。貞享四年（四十四才）（一六八七）十月二十五日江戸を発足西下した。

芭蕉研究資料集成　昭和中期篇　全８巻

佐藤　勝明 編・解説

〈総記・伝記１〉　芭蕉の風土、俳句批判（抄）
〈総記・伝記２〉　芭蕉と初心、芭蕉論考
〈総記・伝記３〉　芭蕉雑纂、芭蕉研究（抄）
〈総記・伝記４〉　芭蕉と寿貞尼、芭蕉伝記考
〈総記・伝記５〉　註解 芭蕉書簡集
〈作品研究１〉　芭蕉俳文集、芭蕉翁紀行 奥の細道創見
〈作品研究２〉　全釈奥の細道、「おくのほそ道」とその周辺
〈作品研究３〉　芭蕉俳句の解釈と鑑賞、芭蕉七部集連句評釈　冬の日、春の日

Ａ５判／上製クロス装　平成21年７月末日刊行

揃定価95,000円（税別）　ISBN978-4-87733-496-3（セット）　C3392

芭蕉研究資料集成　昭和前期篇　全19巻　久富哲雄 監修・解説

〈伝記・総記〉１．俳人芭蕉傳　２．芭蕉全傳　３．芭蕉の全貌　４．芭蕉の傳記の研究、はせを　５．俳人芭蕉の研究、奥の細道・芭蕉・蕪村　６．俳聖芭蕉、芭蕉展望　７．芭蕉翁雑考　〈俳論〉１．去來抄新講　上　２．芭蕉と俳諧の精神、俳諧の國　〈作品研究〉１．七部集猿蓑評釋　２．猿蓑俳句鑑賞、芭蕉名句評釋　３．芭蕉七部集俳句鑑賞　４．芭蕉句集新講　上　５．芭蕉句集新講　下　６．芭蕉紀行全集、奥の細道詳解　７．奥の細道評釋　８．『奥の細道』綜合研究　９．奥の細道古註ほか　10．おくのほそ道の基礎研究

揃定価275,000円（税別）　ISBN4-87733-009-70、10-0

芭蕉研究論稿集成　明治・大正・昭和前期篇　全５巻　久富哲雄 監修

第一巻　芭蕉特輯雑誌集　大正７年～昭和15年
第二巻　芭蕉特輯雑誌集　昭和16年～昭和20年
第三巻　芭蕉特輯雑誌集　昭和21年～昭和32年
第四巻　主題別論稿集（１）
第五巻　主題別論稿集（２）

揃定価80,000円（税別）　ISBN4-87733-077-1（セット）

蕉門研究資料集成　全８巻　佐藤勝明 編・解説

第一巻　芭蕉の門人　上、下
第二巻　芭蕉と門人、芭蕉をめぐる人々
第三巻　其角、俳人許六の研究
第四巻　俳人惟然の研究
第五巻　俳人丈艸、丈艸伝記考説
第六巻　史邦と魯九、『俳文学研究』抄、『大阪と蕉門』抄
第七巻　其角研究　上　五言集輪講春夏之部
第八巻　五元集全解

揃定価95,000円（税別）　ISBN4-87733-239-1（セット）

蕪村研究資料集成　全17巻　久富哲雄・谷地快一 監修・解説

〈伝記・俳論〉１．與謝蕪村、俳人蕪村ほか　２．聽蛙亭雑筆　３．俳諧一家言蕪村その他、蕪村の新研究　４．畫人蕪村、蕪村と其周圍　〈作品研究〉１．増訂蕪翁句集、校註蕪村全集　２．蕪村遺稿、蕪村俳句評釋　３．蕪村七部集俳句評釋　４．標註蕪村俳句全集、續蕪村俳句標釋　５～８．蕪村句集講義　蕪村遺稿講義　春・夏・秋・冬之部　９～12．蕪村夢物語　春・夏・秋・冬の部　13．校註解釋蕪村俳句全集、俳句講話古人を説くほか

揃定価156,000円（税別）　ISBN4-906330-82-7、83-5

〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14-5　メローナ日本橋
☎03-3808-1821　FAX03-3808-1822　http://www.kress-jp.com/
株式会社クレス出版

●書店名